

令和 4 年度 県立取手第二高等学校自己評価表

目指す学校像	1 生徒一人一人が個性を發揮し、主体的に活動する学校 2 社会で生きていくために必要な資質・能力を身に付けることができる学校 3 自己のキャリアについてしっかり考え、目標に向けて果敢にチャレンジできる学校 4 家庭・地域社会との相互理解を図り、家庭・地域の信託に応える開かれた学校 5 教職員相互が指導力の向上及び環境の整備を図り、一致協力して組織的かつ計画的に教育活動を展開できる学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>〈成果〉</p> <p>学校生活アンケート結果では「授業の内容が理解できている」生徒が 80%を超え、基礎的な学力は定着しつつある。進学希望者は毎年 80%程度で、大学短大への進学希望者は 30%を超え、総合型選抜や一般選抜で最後まで諦めずに挑戦する生徒が増加している。昨年度の卒業生における大学短大・専門学校進学者は 77%、そのうち、大学短大進学者は 28%であった。学校斡旋による就職内定率は 100%である。基本的な生活習慣が身に付いている生徒がほとんどであり、全般的に落ち着きのある学校生活を送っている。学校行事に積極的に参加する生徒は 92%、部活動の加入率は増加傾向にあり、昨年度は 55.7%であった。</p> <p>〈課題〉</p> <p>進学希望者は多いものの主体的に学ぶ姿勢が弱く、家庭学習に取り組んでいる生徒は 45%、課題に積極的に取り組めない生徒が 12%と学習時間・意欲共に不足している生徒が少なくない。具体的な進路希望先の早期決定、適切な進路選択と実現に向けた支援の充実が課題であり、生徒個々の実態把握と理解に向けた継続的かつ段階的な指導の工夫が求められる。学校生活の面では、問題行動による指導件数は少ないものの、服装・頭髪や情報モラルの面で規範意識の低い</p>	<p>学力を向上させるための授業実践</p>	<p>①授業時間の確保と P D C A サイクルによる学習指導の工夫や改善を図る。</p> <p>②教科指導における I C T の活用を推進し、生徒の実態を踏まえた課題や内容の精選を通して、個別最適化に向けた指導の充実を図る。</p> <p>③少人数授業、課外授業等の充実を図り、個に応じた発展的な学びを推進して学習意欲を高めるとともに、入試や資格試験に対応できる学力の向上を目指す。</p> <p>④学校図書館の積極的な活用を促し、自学自習の習慣の定着を図る。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>
	<p>社会で通用するマナーやルールを身に付けさせる生徒指導の充実</p>	<p>⑤時間を守り(時)、礼を尽くし(礼)、身だしなみや周囲の環境を美しく保つ(美)の徹底を図る。</p> <p>⑥段階的指導を有効に活用し規範意識を高めるとともに、公共の場におけるマナーを身に付けさせる。</p>	<p>B</p> <p>B</p>
	<p>キャリア教育の推進</p>	<p>⑦各種進路行事や課外授業の在り方を検討し、個に応じた進路指導の推進を図る。</p> <p>⑧デュアルシステムやインターンシップなどの実践により、職業意識の高揚を図る。</p> <p>⑨様々の教育活動や行事等と関連付けながら、個々のキャリアプランニング能力を高め、3年生の時点で進路希望未決定者を 0%にする。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>
	<p>豊かな心の育成</p>	<p>⑩「道徳」や「探究」における協働的な学びを通して、他者や社会、自分と異なる世界との関わりを学び、人間関係構築力やコミュニケーション力を養う。</p> <p>⑪学校行事や特別活動を通して、集団の一員として他人の立場を尊重し、思いやりの心で人と接することができるようにする。</p> <p>⑫面談や教育相談による心のケアの充実を図る。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>

別紙様式2（高）

生徒も若干見受けられる。HR、学年、生徒指導部を軸に家庭や関係機関との連携の強化、及び規範意識の徹底・向上を図る必要がある。働き方改革については、定時退勤日の設定や時差出勤の奨励等、勤務時間の管理を行い、改善の傾向にはあるが、時間外勤務の常態化はなかなか解消できていない。	主体的で活力ある学校生活の実現	⑬HRや学校行事等においてキャリアパスポートを活用し、自らの高校生活のあり方や振り返りを通して、自己理解の深化と将来について主体的に学び考える力を育む。	A	
		⑭生徒会活動や各種委員会活動の魅力化・活性化を図り、主体的に活動する姿勢を育成する。	B	
	働き方改革の推進	⑮活発な部活動を積極的に評価することで自尊感情・活動意欲を高め、部活動の加入率の上昇と活性化を図る。	A	
		⑯現行の業務内容について点検・見直しを行い、スクラップアンドビルドによる業務改善に取り組み、勤務時間の適正化に努める。	B	
		⑰ICTの活用による情報の共有化や会議の効率化を図る。	A	
		⑱「部活動に係る活動方針」に基づき、環境を整備し、適切な運営体制を構築する。	A	
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○自ら考え行動し、他者と協力して課題が解決できる人財 ○自己実現に向けて、ひたむきに努力ができる人財 ○地域を支える核となって活躍する、社会に貢献できる人財		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○個に応じた学習形態（少人数、TT等）による学力の向上 ○協働的な体験学習の中で成功体験を積み重ね、自尊感情や自己肯定感を高める ○文・理・家政系それぞれのニーズに合わせた知識・技能の習得とキャリア教育により、多様な進路希望の実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○主体的に取り組む姿勢を持ち、学習や部活動、特別活動に積極的に参加する意欲のある生徒 ○学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、自分の進路実現を目指して日々努力する生徒 ○家庭科の学習に興味を持ち、専門的な知識や技術を身に付けるよう積極的に取り組む強い意欲のある生徒		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語科	基礎学力の定着	授業における語彙力の重点的な学習及び全10回以上の漢字テストにより、実社会に通用する語彙力を養い、言語運用能力の向上を図る。①③	A	A ・ICT活用の充実 ・主体的に表現しようとする態度の育成 ・図書館利用の促進 ・進路を見込んだ「書くこと」の指導の充実
		新聞の活用や読書指導を実践し、読書習慣を身に付けさせるとともに、「書く」指導を充実させ、自己表現力を身に付けさせる。①④	B	
	主体的に学ぶ態度の育成	十分な教材研究に基づいた「分かる授業」を実践するとともに、生徒が知的好奇心をもち自ら積極的に参加する授業を目ざし、ICTを取り入れる等の工夫を行う。①②	B	
		生徒が間違えることを恐れずに自己の考えを表現できるように、授業の雰囲気作りやノートの取り方を工夫する。①	A	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
地歴公民科	基礎学力の定着と、社会的事象への関心の喚起	生徒の実態に即した授業を展開することによって、授業に集中させ、理解力を高める。①	A	B	・タブレット等のより一層の活用
		副教材を活用し、興味・関心をもって授業に取り組めるようにする。③	A		
	生徒が自ら考え、主体的に授業に取り組める指導	視聴覚教材・電子黒板・タブレットを活用し、社会的事象に興味を抱かせる。②	B		
		グループ学習やレポートの発表、学校図書館の活用など生徒が主体的に参加する授業形態を取り入れる。④⑩	B		
数学科	基礎学力の定着	授業における目標の提示や復習、小テストの実施や宿題等での振り返りを適宜行い、PDCAサイクルによる学習指導を通して技能の習得を図る。①	A	A	・タブレットや電子黒板等 ICT の効果的な活用の研究 ・授業内での主体的・協働的な活動の推進
		ICT を効果的に活用し、資料の提示や課題配信等を行い、知識の定着を図る。②	B		
		少人数授業や課外授業等を通して、個に応じた学習支援を行う。③	A		
	主体的に学ぶ態度の育成	意見の共有や教え合い等の主体的・協働的な活動を通して、数学的な思考・判断・表現力の向上を図る。①	A		
		電子黒板やタブレットを活用し、他者に説明したり、自分の考えを深めたりする機会を設ける。②	B		
		課外授業等を通して、数学検定等の資格取得や大学入試に対応できる学力の向上を目指し、発展的な学びに対する指導を行う。③	A		
理科	科学的リテラシー、学習事項の基礎基本の定着と上級学校へ向けた学力育成(知識・技能)	スタディサプリの活用を研究し、効果的な学習方法が展開できるよう援助する。①②③	B	A	・ICT活用及びアクティブラーニングの手法を用いた学習の実践、生徒の主体的な学びを深める指導法と学習評価の研究 ・新教育課程の限られた授業時間での実験・実習の取り入れ方の工夫
		個に応じた進学課外授業を実施する。③	A		
	生徒の主体性を育成できるような授業展開(学びに向かう力)	日常生活との関連や、授業の目的の明確化により、能動的な学びを展開する。①②	A		
		学期内に相互授業参観を2回以上行い、教科間で情報の共有や指導法の相互評価を行うことで授業力の向上を図る。①②③	B		
		アクティブラーニングの手法を用いた学習を実践する。また、それに伴う教具を準備する。①②	B		
	学習事項と日常の科学的事象とを結びつけて考えられる力の育成(思考力・判断力・表現力)	振り返りシートを簡素化し学習内容を文章で表現し、興味関心を持った内容や授業での思考力を必要とする気づきや疑問点をまとめられる力を育成する。①③	A		
		アプリ(ソフト)やデジタル機器(ハード)を利用した教材の研究と活用を進める。②	B		
	観点別評価による、生徒の資質の多様な側面からの評価	定期考査における評価を観点別に行う。①	A		
		振り返りシート、レポート、小テスト、パフォーマンステストなど、多様な評価を行うとともに、定期考査で評価する観点を明確にする。①③	A		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
保健体育科	体力の向上	準備体操にオリジナルダンスの創作と導入を行い、主体的・協働的な活動と体力の維持・向上を図る。②⑩	B	A ・オリジナルダンスの方法検討 ・体力維持向上 ・ワークシートチェックで MMTG 形式の導入
		体力テストの結果から、次年度の改善策を検討する。①②	B	
	主体的な集団活動を行う中での社会性の育成	挨拶、準備、片付け、集団行動に力を入れる。⑤⑥⑩	A	
		体育のワークシートやグループ学習を取り入れ、生徒が自ら考え、意見を共有する場をつくる。⑩⑪	A	
活動記録に基づく課題解決能力の向上	プリントやノートを定期的に点検し、学習習慣定着支援をおこなう。② 各種目・各講座において、スキルテストの統一実施を行う。①④	A A		
芸術科	表現領域の深化と、創造的な能力の向上	幅広い教材を扱い、多様な技術や表現方法に触れ、表現技能の基礎を育成する。② 表現方法を工夫しながら、生徒の個性を生かした創造的な表現活動を支援する。①②	A A	A ・表現領域と鑑賞領域を関連付けた学習の研究
	鑑賞領域の充実による、芸術文化についての理解	日本や世界の様々な芸術作品に触れ、よさや美しさを味わうことで、鑑賞意欲を育てる。①②	A	
		作品について自分の言葉で表現すること、また他者の思いを感じ取ることで、鑑賞の能力を高める。②	B	
外国語科	幅広い学力層や多様な進路希望に対応する指導方法の工夫	生徒全体の基礎学力を向上させるため、小テストや単語テストを継続的に実施し、4技能の基礎としての語彙力・文法知識の定着を図る。②	B	B ・4技能の基礎としての知識の定着を支援する ICT 活用方法の研究 ・書く能力、話す能力をさらに育成するための授業の研究
		大学進学対策や英検対策など生徒の進路や希望に応じた課外授業を実施し、実態に即した支援を行う。③	A	
	自主学習・家庭学習の定着	授業の予習・復習を習慣化させ、デジタル教科書等 ICT を活用することで生徒が主体的に学べるように授業を展開する。②	B	
		定期考査の計画的な対策や事後の振り返りなど、目標や計画に基づいて自主的に学習に取り組む意識の高揚を促す。①	B	
		課題配信や視聴の促進などスタディサブリを効果的に活用することで、授業と連携した学習支援を行い、自主学習・家庭学習の定着を図る。②	B	
	英語コミュニケーション能力を高めるための授業改善	ICT の活用および ALT とのチーム・ティーチングを通して 4 技能を総合的に高める指導を工夫し、実践的コミュニケーション能力の育成を図る。②③	B	
グループやペアでの言語活動を取り入れた生徒主体の授業を積極的に展開する。③		A		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
家庭科	知識と技術の定着・向上	家政科においては、技術検定等の資格取得(上級合格)を目指し、特に家庭科技術検定では1級3冠王を輩出する。③	A	A ・実技の習得・技術向上に向けた指導 ・教員間での情報共有と、指導力向上 ・ICTの活用の充実、実技向上のため研修実施 ・コンテスト等への積極的な参加促進
		個々の生徒の到達度を把握し、きめ細やかな支援を徹底する。②	A	
		家庭での反復学習の指導、計画的な補習を行う。①②⑦	B	
	教員の指導力と管理能力の向上	正確かつ最新の情報を授業に取り入れるよう努める。専門科目を教える自覚を持ち、技術向上のため情報を共有し、研修に励む。実習道具の安全管理に努める。①②⑦	A	
	地域との連携強化	学校家庭クラブ活動を活発にする。(子育て支援、家庭教育支援、TORINYブランドのPRなど)①	B	
		デュアルシステムを導入し、生活産業への理解を深め職業観を培う。⑧	B	
家政科の活動の充実	大学出前講座やマイスター制度を利用し、家政系の進路への進学意識を高める。⑧⑨	A		
	学校通信等を通じて本校家政科の広報活動を行う。⑭	A		
情報科	基礎学力の向上	パソコンの実習を通して、基本的な操作の習得・習熟に努める。①②	A	A ・新教育課程下で実施可能な文章入力練習とICT活用能力育成を意識した学習活動の設定
		振り返りシートを用いて毎時間の達成状況を把握し、個別の指導に生かす。②③	A	
		プレゼンテーション能力向上を目指す指導を強化して情動的表現力の向上に努める。②③	A	
		ビジネス文書実務検定試験の受験を通じて自己研鑽の心を育成する。②③	A	
	情報モラルの確立	情報化社会の問題点を捉えることを重点課題とし、情報モラルについて年間を通じて繰り返し指導する。②	A	
		情報をめぐる具体的な問題事例を取り上げて、その改善策を考えさせる。①②	B	
教務部	授業実践を通しての学力向上	各教科と連携し、生徒の実態に即した教育課程の編成及び運営、実施状況の評価と改善に努める。①③	A	A ・ICTを活用した授業の研究・促進と、個々の生徒の理解度に応じた「わかる授業」の展開 ・生徒の自主学習の環境づくりの支援 ・学校ランドデザインを踏まえた教育課程編成の改善
		ICTを活用した授業の実践、少人数授業や課外授業等の充実による発展的な学びと、個々の生徒に配慮した「わかる授業」を推進する。②③	B	
		学習活動アンケートにより生徒の授業理解度や学習状況を把握し、授業改善による学力向上に繋げる。①	A	
	校内におけるICT環境整備	各普通教室及び特別教室等に整備する教育用コンピュータや周辺機器の管理を行う。②⑦	A	
		校内LANやインターネット接続等、ネットワーク環境の整備に努める。⑦	A	
		ICT環境の保守管理にあたり、情報セキュリティの確保や個人情報の保護、コンピュータウイルスへの対応に留意する。⑦	A	
		会議や情報共有におけるICTの活用を促進する。⑦	B	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立	きちんとした身だしなみを身に付けさせる。(頭髪・服装指導を段階的に定着)⑤⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣(身だしなみ・時間)の定着および自己管理能力の向上 ・交通関係や問題行動(薬物・スマホ等)への予防計画 ・段階的指導の定着 ・いじめ等の早期対応
		自ら環境等を整える態度を育成する。(段階的指導による自己指導力の育成)⑩⑪	B	
		礼儀・挨拶・言葉遣い等の基本的マナーを身に付けさせる。(声掛け指導)⑤⑥	B	
	生徒が自己実現を図る上で必要な自己指導能力の育成	時間遵守して生活ができる習慣を育成する。(遅刻指導等)⑤⑥	B	
		問題行動への予防・解決に努め、生徒を健全育成する。(関係機関等の講話・家庭訪問・個人面談等の実施)⑥⑩⑪	A	
		学校・家庭・地域・関係機関等と連携して生徒の健全育成と社会的自立を図る。⑩⑪	A	
交通安全指導の充実	交通講話や登校指導等による道路交通法の励行や交通マナーを身に付けさせる。⑩	A		
進路指導部	個に応じた進路指導の推進	3年間を見通した進路計画に基づき、進路ガイダンス等を実施し、生徒のキャリアプランニング能力を高めるとともに、個々の生徒に応じた進路活動への支援を行う。⑦⑨	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路計画の更新 ・職業意識の高揚に向けた取組の工夫 ・外部模試や資格試験の有効活用 ・進路学習室の環境整備と有効活用
		学年・教科と連携し、面接指導や外部模試、資格試験等を実施し、大学・短大、就職試験等への対策を行う。③⑦	B	
	キャリア教育の充実	インターンシップや職業人講話、職業ガイダンスを計画・実施し、職業観・勤労観を身に付けさせ、職業意識の高揚を図る。⑧	B	
	進路情報の共有と活用	入試や就職に関する情報をとりまとめ、進路のしおりや進路だより等を通じて提供することにより、生徒の自主的な進路活動を支援する。⑦⑨	A	
		学年を超えて生徒の進路に関する情報を共有し、学校全体で進路指導ができるようにする。⑦⑨	B	
特別活動部	他者との関わりのなかで、自らが活躍できる場所を見つけることによる、自己肯定感の高揚	生徒会本部役員の主體的な活動を促すことで、リーダーとしての資質向上を図る。⑨⑪	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の精選 ・業務の可視化・効率化と負担の均等化
		各種学校行事に対して、生徒が自主的に活動・運営できるように支援する。⑨⑪	A	
		部活動の環境改善に努め、生徒の健全な心身の育成と学校の活性化につなげる。⑩⑪	B	
		アンケート回答率を高めることで、生徒の活動環境を改善するための支援を行う。⑤⑪	B	
		生徒が、地域貢献活動に主体的に参加できるように支援する。⑩⑪	C	
保健安全部	各種検診の完全実施	広報・伝達の徹底を図る。(学経2-4)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教師・保護者・関係諸機関とのより密な連携と、場合に応じたケース会議の速やかな実施 ・ゴミの分別の徹底をはじめとした環境整備の強化 ・整備委員会の積極的な活用
		学校医との連携を図る。(学経2-4)	A	
	教育相談の充実	生徒・教師・保護者との連絡を密にする。⑫(学経2-1、2、3、4)	B	
		スクールカウンセラー及び関係諸機関との連携を図る。⑫(学経2-1、2、3、4)	A	
	環境整備・清掃の強化	生徒の意識の向上を図る。⑤	B	
		委員会の活用を図る。⑭	B	
	職員研修の充実	危機管理防災意識を向上させる。(学経2-5)	B	
		スクールカウンセラーを交えたケース会議を開催する。(学経2-5)	B	
		AED講習会を開催する。(学経2-5)	B	
	性教育意識の向上	知識の理解と啓発を図る。⑩(学経2-2、3)	B	
生徒の実態に応じた性教育講演会を実施する。⑩⑪		B		

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
渉外部	保護者や地域住民への情報発信	P T A新聞「あおい」を年2回発行し、学校およびP T A活動に関する情報を外部へ発信する。⑦⑫⑬	A	B ・ P T A活動の内容精選と保護者負担軽減について保護者を交えての検討継続
		生徒広報委員会の活動を通して、近隣中学校や地域住民に学校の情報を発信する。⑪	B	
	保護者が参加しやすいP T A組織づくり	定例委員会・各種専門委員会の開催により、P T A役員・保護者との連携に努める。⑦⑩⑭	B	
		P T A総会を開催し、P T A会則の見直しや保護者の負担軽減を図る。⑯⑰	A	
同窓会との連携	生徒指導部及び各学年との連携を図り、学年委員協力の下、年2回登校指導を行う。⑤⑥⑩	A		
図書部	図書館の環境整備	同窓会役員との連携を図り、100周年記念事業の計画を推進する。また3学年生徒に対する同窓会入会式の実施を支援する。	B	B ・読書習慣の定着並びに不読率解消 ・学習センターとしての機能の充実 ・魅力ある学校図書館としての環境整備 ・読書習慣の重要性周知のための広報活動
		利用価値が低い図書を除籍・廃棄し、図書資料の充実を図る。④⑯	C	
		各教科と連携を図り、図書の購入計画と活用計画を立てる。③⑨⑰	B	
	読書習慣の定着	他の公立図書館との連携を通して、学習センター・図書センターとしての機能を充実させる。④⑨	A	
		図書館便り・学校行事等を通して読書の楽しさを伝え、読書習慣の定着を図る。④	B	
	豊かな心の育成	生徒図書委員と図書担当職員の研修会に積極的に参加し、図書館の活性化を図る。⑩⑭	A	
読書を通して、他者や社会との関わりを学び、思いやりの心、コミュニケーション力を養う契機を与える。④⑥		B		
第1学年	基本的生活習慣と学習習慣の確立	安心できる環境を提供し、心身の健康に寄与する。⑫	A	B ・模試やToriny Academy参加生徒の拡大 ・進路ガイダンスの計画性と振り返り ・生徒指導面の継続的支援 ・面談の有効活用
		授業を大切にす意識を醸成し、学習意欲を高める。①⑤	A	
		基礎的・基本的な学力の養成と定期考査への計画的学習の習慣を図る。②④	B	
	進路意識の醸成と適切な進路選択の支援	提出期限の厳守、登校状況、服装容儀などの基本的生活習慣の確立に努める。⑤	B	
		発達段階に応じて適切に計画を立て、進路意識を深める。⑦	A	
		職業を知り、自己を見つめ、自分の適性に応じた進路選択を支援する。⑨	B	
	環境適応能力を身に付け、心身の調和がとれた人物の育成	望ましい職業観を育成し、早期に進路意識を確立させる。⑦	B	
		自己肯定感を高め、自己の可能性を開発できるよう支援する。⑩⑪	A	
		社会に積極的に関わり、他者に配慮できる人材を養成する。⑪	B	
自分の言動に責任を持ち、場に応じた言動が取れるようにする。⑥	B			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第2学年	社会に求められる人材の育成	提出期限の厳守、登校状況、服装容儀などの基本的な生活習慣の確立に努める。⑤	B	B ・社会に求められる人材についての考察と規律を守る大切さの継続的指導 ・自分なりの学習方法の開拓と、学習習慣の定着 ・各種調査による生徒の状況把握や適切な進路情報の提供 ・進路指導部と連携した進路支援体制の整備
		規範意識及びマナーを身につけ、時と場や目的に応じた立ち振る舞いができるように支援する。⑤⑥	B	
		各生徒に役割を与え、自己肯定感を高められるよう支援する。⑪⑭	B	
		ホームルーム活動や学校行事などを通し、所属する集団(クラス・学年・学校)に貢献する意識と行動を育てる。⑪⑬	A	
	学習習慣の確立と授業に真剣に取り組む姿勢の定着	授業を大切にすることを醸成し、学習意欲を高める。②④	B	
		基礎的・基本的な学力の養成と定期考査への計画的学習の習慣化を図る。①②	B	
		少人数指導・課外授業等の指導を行い、資格取得を含めた学力向上を図る。③	B	
	進路について自律的に行動できる生徒の育成	進路ガイダンスなど進路に関する情報収集の機会を設け、自身の適性や希望に応じた進路選択ができるように努める。⑦⑨	A	
		面談等で得た情報を統一的に管理し、生徒の進路実現に向けて細やかな指導に努める。⑨	A	
探究における協働的な学びを通して、社会に貢献できる将来像を描けるようにする。⑨⑩		B		
第3学年	自己指導力の向上	進路活動に併せて規則遵守の重要性を考えさせ、服装容儀等に関して他者からの視線を意識させる。⑥	B	B ・進路決定後の学習意欲の維持 ・自主性の十分な育成
		クラス等の所属する集団の中での役割を与えることで、他者のことを考え主体的に行動する力を育てる。⑬⑭	B	
	進路実現に向けた支援の充実	総合的な探究の時間を利用して、希望進路別に細やかな個別指導を行う。⑦⑨	A	
		学習計画の支援や学習環境の整備を行うことで、自主的に学習に取り組む姿勢を育む。③④	B	
	社会人として必要な素養の涵養	日頃の指導や講演を通して規範意識、マナーを身に付け、時と場に応じた振る舞いができるように支援する。⑤⑥	B	

※ 評価規準：A：十分達成できている B：概ね達成できている C：あまり達成できていない D：不十分である